

平成29年度

退職等年金給付組合積立金 運用報告書

目次

(地方共済事務局)

平成29年度運用実績(概要)	P 7
【第1部 積立金の運用に関する基本的な考え方等について】	
1 積立金の運用に関する基本的な考え方	P 9
2 基本ポートフォリオについて	P10
3 リスク管理について	P11
4 ガバナンス体制	P12
(1) 組織	P12
(2) 運用体制	P12
(3) 年金資産運用検討委員会	P14
【第2部 平成29年度の運用状況】	
1 資産構成割合	P15
2 運用実績	P16
3 リスク管理	P22
4 市場環境	P23
5 保有銘柄	P24
資産運用に関する専門用語の解説	P25

(団体共済部)

平成29年度運用実績	P29
【第1部 積立金の運用に関する基本的な考え方等について】	
1 積立金の運用に関する基本的な考え方	P30
2 基本ポートフォリオについて	P31
3 リスク管理について	P32

目次

4	ガバナンス体制	P33
(1)	組織	P33
(2)	運用体制	P33
(3)	地方職員共済組合地方共済事務局との積立金の管理及び運用に関する協定	P33
(4)	年金資産運用検討委員会	P34
【第2部 平成29年度の運用状況】		
1	資産構成割合	P35
2	運用実績	P36
3	リスク管理	P41
4	市場環境	P42
5	保有銘柄	P43
	資産運用に関する専門用語の解説	P44

地方共済事務局

平成29年度 運用実績（概要）

運用収益額 + 861百万円 ※実現収益額

運用利回り + 1.53% ※実現収益率

運用資産残高 706億円

※ 情報公開を徹底する観点から、四半期ごとに運用状況の公表を行っています。年金積立金は長期的な運用を行うものであり、その運用状況も長期的に判断することが必要です。

（注1）収益率及び収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。

1 積立金の運用に関する基本的な考え方

- 基本的な方針として、国債利回り等に連動する形で給付水準を決めるキャッシュバランス型年金の特性を踏まえ、組合員の利益のため、給付等に対応するための資産を適切に確保しつつ、退職等年金給付事業の運営の安定、かつ、組合員の福祉の増進又は地方公共団体の行政目的の実現に資するように行うこととしております。
- また、必要となる積立金の運用利回りを最低限のリスクで確保するよう、基本ポートフォリオを定め、これを適切に管理することとしています。

退職等年金給付組合積立金の管理及び運用の基本的な方針(抜粋)

1 基本的な方針

退職等年金給付組合積立金の運用は、国債利回り等に連動する形で給付水準を決めるキャッシュバランス型年金の特性を踏まえ、組合員の利益のため、給付等に対応するための資産を適切に確保しつつ、退職等年金給付事業の運営の安定、かつ、組合員の福祉の増進又は地方公共団体の行政目的の実現に資するように行う。

このため、長期的な観点からの資産構成割合(以下「基本ポートフォリオ」という。)を策定し、退職等年金給付組合積立金の管理及び運用を行う。

2 運用の目標

キャッシュバランス型年金という特性を有する退職等年金給付組合積立金の運用は、必要となる積立金の運用利回り(予定利率(地方公務員等共済組合法施行令(昭和37年政令第352号。以下「地共済政令」という。)第28条第5項に規定する予定利率をいう。以下同じ。))とする。)を最低限のリスクで確保するよう、基本ポートフォリオを定め、これを適切に管理する。

その際、市場の価格形成や民間の投資行動等を歪めないよう配慮する。

2 基本ポートフォリオについて

国債利回り等に連動する形で給付水準を決めるキャッシュバランス型年金の特性を踏まえ、財政上必要となる運用利回りである予定利率を最低限のリスクで確保すること、また、制度発足当初は積立金が存在しない状態から始まっていることから、基本ポートフォリオを構成する資産区分については、国内債券としています。

(基本ポートフォリオ)

	国内債券
資産構成割合	100%

ただし、「給付等の対応のため、短期資産を保有することができる。」こととしています。

3 リスク管理について

① リスク管理に関する基本的な考え方

退職等年金給付組合積立金(以下「積立金」といいます。)の運用は、基本方針に定める基本ポートフォリオに基づき、安全かつ効率的に行います。

また、原則として、給付対応等で必要な短期資産を除く全額を国内債券により運用することとし、不動産及び貸付金についても適切にリスク管理を行うこととしています。

② リスク管理の方法

地方職員共済組合地方共済事務局(以下「地方共済事務局」といいます。)が行うリスク管理は、積立金の資産の状況や積立金の収益率と目標運用利回りの乖離状況等を少なくとも毎月1回把握し、問題がある場合は適切に対応することとしています。

このほか、市場リスク、信用リスク等を管理しています。

4 ガバナンス体制

(1) 組織

当組合は、地方公務員等共済組合法に基づいて設立された法人で、地方共済事務局は、組合員である道府県職員等に対し、短期給付及び長期給付の制度を適用し、併せて福祉事業を実施しています。

役員は、平成30年3月末現在、理事長、理事4名（うち非常勤3名）及び監事3名（うち非常勤2名）の8名となっています。

(2) 運用体制

運用体制は、理事長、理事、事務局長、総務部長、総務部財務課（資金係）となっています。

なお、積立金の管理及び運用に係る重要事項について審議するため、資産運用委員会を設置しており、積立金の管理及び運用のリスク管理等を行っています。

また、積立金の管理及び運用に係る専門的な事項については、経済、金融、資金運用等の学識経験又は実務経験を有する者で構成する年金資産運用検討委員会を設置し、専門的な知見を活用しております。

そのほか、基本方針の策定及び変更、運用実績、リスク管理の状況等については、運営審議会※へ報告することとしています。

※ 運営審議会の委員の半数は、組合員を代表する者で組織されています。

(3) 年金資産運用検討委員会

積立金の管理及び運用に係る重要事項について審議するため、「年金資産運用検討委員会」を設置しています。委員は、経済、金融、資金運用等の学識経験又は実務経験を有する者から構成されています。

年金資産運用検討委員会では、基本方針の策定及び変更、基本ポートフォリオの設定及び見直し、リスク管理の実施方針等について審議することとしています。

また、積立金の運用状況、リスク管理の状況等については、年金資産運用検討委員会に報告することとしています。

平成29年度においては、平成28年度運用報告書、平成29年度各四半期運用実績等の内容で4回（持ち回りを含む。）開催しています。

委員名簿（平成30年3月31日現在）

- 米 澤 康 博（早稲田大学大学院経営管理研究科教授）
- 伊 藤 敬 介（みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社
取締役 投資技術開発部長兼データアナリティクス技術開発部長）
- 大 橋 和 彦（一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授）
- 川 北 英 隆（京都大学名誉教授）
- 宮 井 博（あせまねライフ株式会社 代表取締役社長）

1 資産構成割合

- ① 基本ポートフォリオ
平成27年10月に策定した基本ポートフォリオは国内債券100%としています。
ただし、「給付等の対応のため、短期資産を保有することができる。」こととしています。
- ② 運用資産額・構成割合
年金積立金全体の運用資産額及び構成割合等は以下のとおりです。

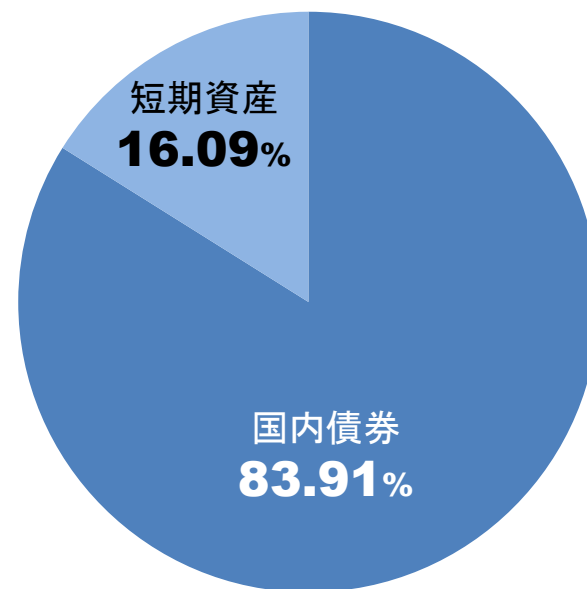
(単位：億円、%)

	平成29年度末	
	資産額	構成割合
国内債券合計	593	83.91
国内債券	159	22.52
不動産	122	17.31
貸付金	311	44.08
短期資産	114	16.09
合計	706	100.00

(注1) 基本ポートフォリオの管理上の国内債券に共済独自資産(不動産及び貸付金)を含めています。

(注2) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

平成29年度 運用資産別の構成割合
(退職年金経理)



2 運用実績

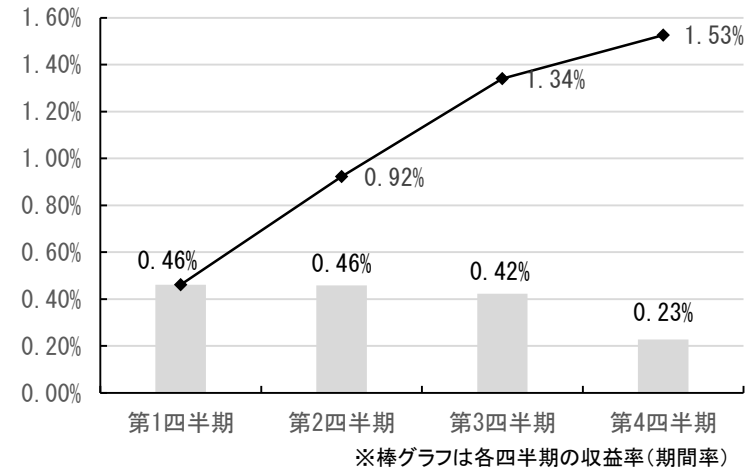
① 運用利回り

○平成29年度の実現収益率は、+1.53%となりました。

○退職等年金給付積立金で保有する国内債券は、満期持ち切りを前提とするため、簿価評価としています。

(単位:%)

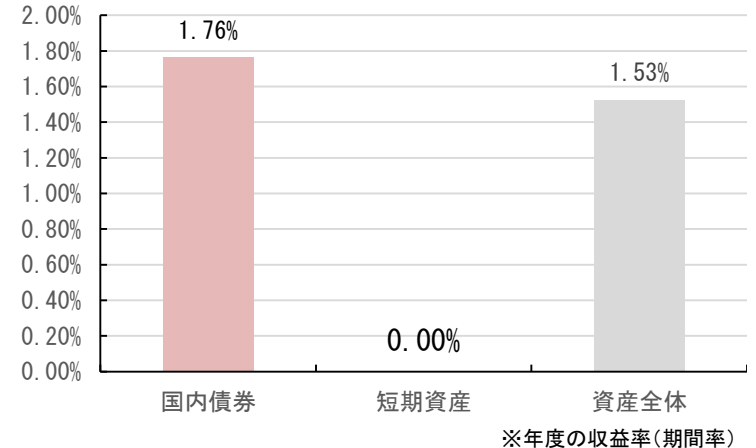
	平成29年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.46	0.46	0.42	0.23	1.53
国内債券	0.51	0.53	0.51	0.27	1.76
国内債券	0.16	0.17	0.15	0.14	0.61
不動産	0.59	0.59	0.58	0.56	2.20
貸付金	0.59	0.60	0.61	0.24	2.05
短期資産	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00



(参考)

(単位:%)

	平成29年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
修正総合収益率	0.53	0.51	0.42	0.30	1.72



(注1) 各四半期および「年度計」の収益率は期間率です。

(注2) 収益率は、運用手数料控除後のものです。

(注3) 修正総合収益率は、実現収益率に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。

【参考】平成28年度運用利回り

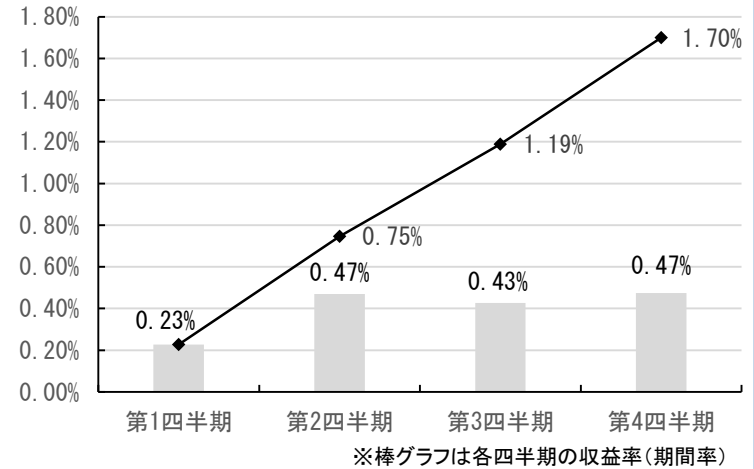
運用利回り

○平成28年度の実現収益率は、+1.70%となりました。

○退職等年金給付積立金で保有する国内債券は、満期持ち切りを前提とするため、簿価評価としています。

(単位:%)

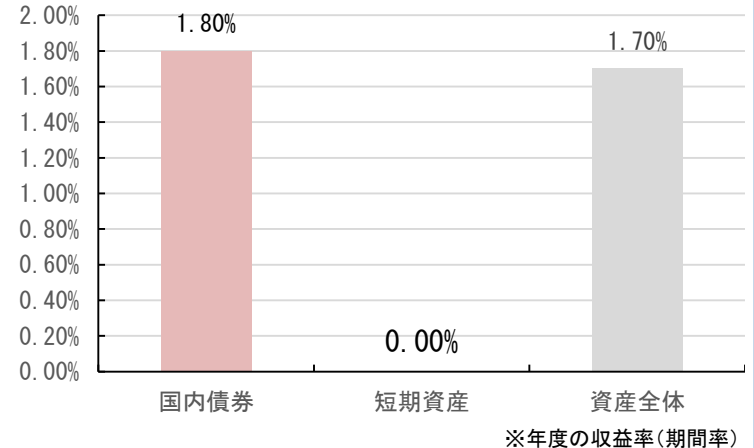
	平成28年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.23	0.47	0.43	0.47	1.70
国内債券	0.26	0.49	0.44	0.50	1.80
国内債券	0.04	0.34	0.04	0.28	0.70
不動産	—	—	—	0.00	0.00
貸付金	0.39	0.57	0.57	0.56	2.09
短期資産	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00



(参考)

(単位:%)

	平成28年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
修正総合収益率	2.28	▲0.55	▲0.16	0.33	1.19



(注1) 各四半期および「年度計」の収益率は期間率です。

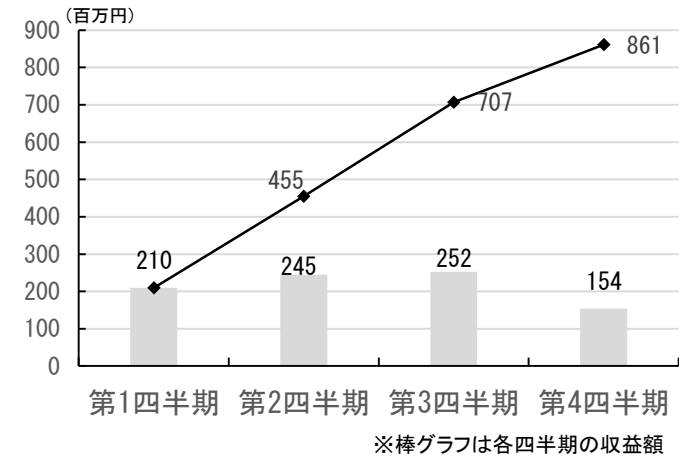
(注2) 収益率は、運用手数料控除後のものです。

(注3) 修正総合収益率は、実現収益率に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。

- ② 運用収入の額 ○平成29年度の実現収益額は、+9億円となりました。
 ○退職等年金給付積立金で保有する国内債券は、満期持ち切りを前提とするため、簿価評価としています。

(単位：百万円)

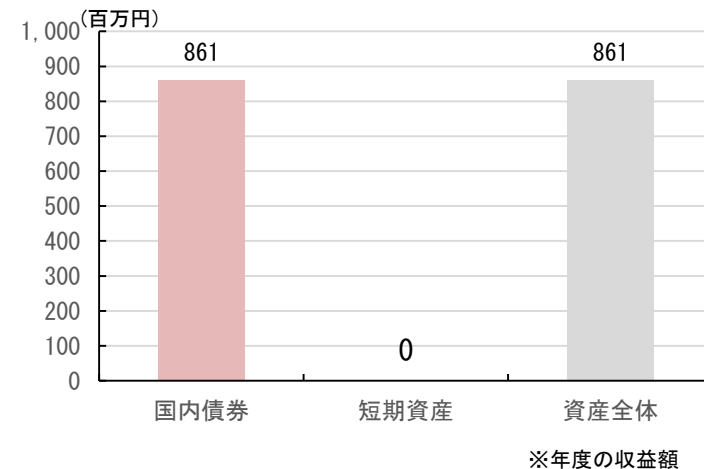
	平成29年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	210	245	252	154	861
国内債券	210	245	252	154	861
国内債券	13	13	17	21	63
不動産	13	31	35	59	137
貸付金	184	201	201	74	661
短期資産	0	0	0	0	0



(参考)

(単位：百万円)

	平成29年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
総合収益額	241	272	254	208	976



- (注1) 収益額は、運用手数料控除後のものです。
 (注2) 総合収益額は、実現収益額に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。
 (注3) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

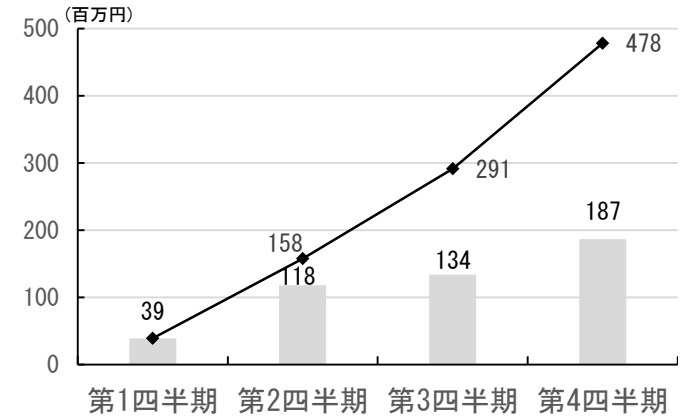
【参考】平成28年度運用収入の額

運用収入の額

○平成28年度の実現収益額は、+5億円となりました。

○退職等年金給付積立金で保有する国内債券は、満期持ち切りを前提とするため、簿価評価としています。(単位：百万円)

	平成28年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	39	118	134	187	478
国内債券	39	118	134	187	478
国内債券	3	27	3	22	55
不動産	—	—	—	0	0
貸付金	36	92	131	165	423
短期資産	0	0	0	0	0



※棒グラフは各四半期の収益額

(参考)

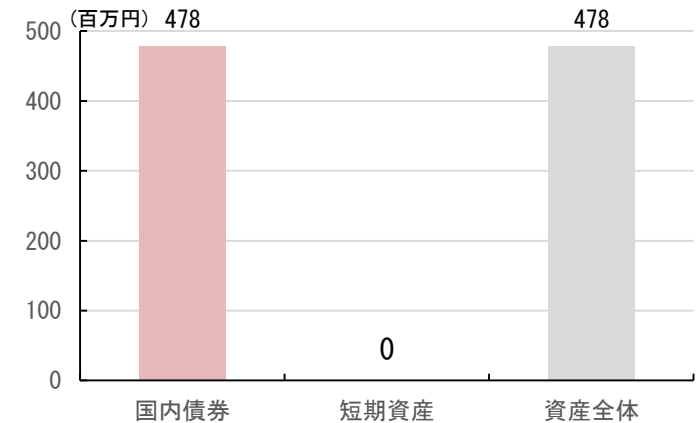
(単位：百万円)

	平成28年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
総合収益額	404	▲143	▲51	130	339

(注1) 収益額は、運用手数料控除後のものです。

(注2) 総合収益額は、実現収益額に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。

(注3) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。



※年度の収益額

③ 積立金の資産の額

(単位：億円)

	平成29年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価 損益	簿価	時価	評価 損益	簿価	時価	評価 損益	簿価	時価	評価 損益
国内債券	420	424	5	476	483	7	509	518	10	593	596	3
国内債券	78	81	3	78	81	3	132	135	3	159	162	3
不動産	27	27	0	60	60	0	60	61	1	122	122	0
貸付金	315	317	2	338	342	4	317	323	6	311	311	0
短期資産	84	84	0	87	87	0	143	143	0	114	114	0
合計	503	508	5	563	570	7	651	661	10	706	710	3

(注1) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(注2) 平成28年度より、各ファンドで保有する短期資産は、原則として該当する資産区分に計上しております。

【参考】平成28年度積立金の資産の額

(単位：億円)

	平成28年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価 損益	簿価	時価	評価 損益	簿価	時価	評価 損益	簿価	時価	評価 損益
国内債券	190	198	8	277	283	6	355	360	5	396	398	2
国内債券	78	85	7	78	83	5	78	81	3	78	80	2
不動産	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	8	0
貸付金	112	112	0	199	200	1	277	279	3	310	310	0
短期資産	30	30	0	4	4	0	13	13	0	24	24	0
合計	220	228	8	281	286	6	368	374	5	420	422	2

(注1) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(注2) 平成28年度より、各ファンドで保有する短期資産は、原則として該当する資産区分に計上しております。

3 リスク管理

○ 積立金の収益率と目標運用利回り

- ・平成28年4月以降経過の長期から移管資金を貸付金（2号・3号資産）及び不動産（2号資産）等で運用することにより予定利率の確保を目指しています。尚経過の長期からの貸付金（2号・3号資産）及び不動産（2号資産）の移管については平成29年度で完了しました。
- ・平成29年度通期の実現収益率は1.53%と堅調に推移し、予定利率の年度目標である0.48%を1.05%上回りました。

（単位：％）

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	通年度
国内債券	0.51	0.53	0.51	0.27	1.76
短期資産	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
全体	0.46	0.46	0.42	0.23	1.53
（参考）修正総合収益率	0.53	0.51	0.42	0.30	1.72

予定利率		実績	
年率	各四半期	年度	第4四半期
0.48%	0.12%	1.53%	0.23%

4 市場環境

○ 国内債券市場

4月に一時5ヶ月振りの低水準となりましたが、5月には株高や米国金利高、6月にはECB（欧州中央銀行）の金融政策正常化が意識され月末にかけ上昇しました。7月に日銀が通常の国債買い入れオペを増額したことに加え、約5ヶ月ぶりに指値オペを実施したことなどにより金利上昇が抑制されました。8月には利回りは低水準になり、9月初旬に一時マイナスとなりましたが、月末にかけ利回りは上昇しました。日銀の国債買い入れオペの結果、利回りは11月上旬に低下しました。その後は利回りは一時上昇に転じる局面もありましたが、上昇は続きませんでした。12月は上旬に小幅に利回りが上昇しましたが、その後は日銀が金利操作水準を維持するなかでほぼ横ばいで推移しました。1月上旬に株高や日銀の国債買い入れオペの減額などを受け利回りは上昇しました。2月は概ね月間を通じて低下傾向となり、3月は利回りが上下する局面がありましたが、月間では利回りは変わりませんでした。

日本10年国債利回りの推移



	2017/3末	2017/6末	2017/9末	2017/12末	2018/3末
10年国債(%)	0.065	0.075	0.060	0.045	0.045

5 保有銘柄

平成29年度末（平成30年3月31日現在）の保有銘柄は次の通りです。

	発行体名	簿価総額 (億円)
1	地方公共団体金融機構	123
2	日本国	22
3	地方公共団体（共同発行）	14
計	3発行体	159

- **貸付金**
組合員に対して貸し付ける貸付金及び長期貸付金（不動産取得以外のために貸し付ける資金）です。
- **基本ポートフォリオ**
統計的な手法により定めた、最も適格と考えられる資産構成比（時価ベース）。
- **実現収益率**
運用成果を測定する尺度の1つです。売買損益 及び 利息・配当金収入等の実現収益額を元本（簿価）平均残高で除した元本（簿価）ベースの比率です。
- **修正総合収益率**
時価ベースで運用成果を測定する尺度の1つです。実現収益額に資産の時価評価による評価損益増減を加え、時価に基づく収益を把握し、それを元本平均残高に前期末未収収益と前期末評価損益を加えたもので除した時価ベースの比率です。算出が比較的容易なことから、運用の効率性を表す時価ベースの資産価値の変化を把握する指標として用いられます。
（計算式）
修正総合収益率 = { 売買損益 + 利息・配当金収入 + 未収収益増減（当期末未収収益 - 前期末未収収益）
+ 評価損益増減（当期末評価損益 - 前期末評価損益） } / （元本（簿価）平均残高
+ 前期末未収収益 + 前期末評価損益）
- **総合収益額**
実現収益額に加え資産の時価評価による評価損益を加味することにより、時価に基づく収益把握を行ったものです。

（計算式）総合収益額 = 売買損益 + 利息・配当金収入 + 未収収益増減（当期末未収収益 - 前期末未収収益）+ 評価損益増減（当期末評価損益 - 前期末評価損益）

退職等年金給付組合積立金の運用状況については、この運用報告書を含め、地方職員共済組合のインターネット・ホームページ(<http://www.chikyosai.or.jp/>)に掲載していますので、ご参照ください。

○ **退職等年金給付組合積立金**

被用者年金一元化後、地方共済事務局が年金払い退職給付のため積立を開始し、管理運営している積立金。

○ **不動産**

投資不動産（不動産であって、売渡しを目的とするものの取得に充てる資金）及び長期貸付金（不動産取得のために貸し付けられる資金）です。

退職等年金給付組合積立金の運用状況については、この運用報告書を含め、地方職員共済組合のインターネット・ホームページ(<http://www.chikyosai.or.jp/>)に掲載していますので、ご参照ください。

團體共濟部

平成29年度 運用実績（概要）

運用収益額 + 7百万円 ※実現収益額

運用利回り + 0.34% ※実現収益率

運用資産残高 27億円

※ 情報公開を徹底する観点から、四半期ごとに運用状況の公表を行っています。年金積立金は長期的な運用を行うものであり、その運用状況も長期的に判断する必要があります。

（注）収益率及び収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。

1 積立金の運用に関する基本的な考え方

- 基本的な方針として、国債利回り等に連動する形で給付水準を決めるキャッシュバランス型年金の特性を踏まえ、組合員の利益のため、給付等に対応するための資産を適切に確保しつつ、退職等年金給付事業の運営の安定、かつ、組合員の福祉の増進又は地方公共団体の行政目的の実現に資するように行うこととしております。
- また、必要となる積立金の運用利回りを最低限のリスクで確保するよう、基本ポートフォリオを定め、これを適切に管理することとしています。

退職等年金給付組合積立金の管理及び運用の基本的な方針(抜粋)

1 基本的な方針

退職等年金給付組合積立金の運用は、国債利回り等に連動する形で給付水準を決めるキャッシュバランス型年金の特性を踏まえ、組合員の利益のため、給付等に対応するための資産を適切に確保しつつ、退職等年金給付事業の運営の安定、かつ、組合員の福祉の増進又は地方公共団体の行政目的の実現に資するように行う。

このため、長期的な観点からの資産構成割合(以下「基本ポートフォリオ」という。)を策定し、退職等年金給付組合積立金の管理及び運用を行う。

2 運用の目標

キャッシュバランス型年金という特性を有する退職等年金給付組合積立金の運用は、必要となる積立金の運用利回り(予定利率(地方公務員等共済組合法施行令(昭和37年政令第352号。以下「地共済政令」という。)第28条第5項に規定する予定利率をいう。以下同じ。))とする。)を最低限のリスクで確保するよう、基本ポートフォリオを定め、これを適切に管理する。

その際、市場の価格形成や民間の投資行動等を歪めないよう配慮する。

2 基本ポートフォリオについて

国債利回り等に連動する形で給付水準を決めるキャッシュバランス型年金の特性を踏まえ、財政上必要となる運用利回りである予定利率を最低限のリスクで確保すること、また、制度発足当初は積立金が存在しない状態から始まっていることから、基本ポートフォリオを構成する資産区分については、国内債券としています。

(基本ポートフォリオ)

	国内債券
資産構成割合	100%

ただし、「給付等の対応のため、短期資産を保有することができる。」こととしています。

3 リスク管理について

① リスク管理に関する基本的な考え方

退職等年金給付組合積立金(以下「積立金」といいます。)の運用は、基本方針に定める基本ポートフォリオに基づき、安全かつ効率的に行います。

また、原則として、給付対応等で必要な短期資産を除く全額を国内債券により運用することとし、適切にリスク管理を行うこととしています。

② リスク管理の方法

地方職員共済組合団体共済部(以下「団体共済部」といいます。)が行う積立金の運用におけるリスク管理は、積立金の資産の状況や積立金の収益率と目標運用利回りの乖離状況等を少なくとも毎月1回把握し、問題がある場合は適切に対応することとしています。

このほか、市場リスク、信用リスク等を管理しています。

4 ガバナンス体制

(1) 組織

団体共済部は、組合員である地方団体関係団体職員等に対し、長期給付の制度を適用し、併せて福祉事業を実施しています。

役員は、平成30年3月末現在、理事長、理事4名（うち非常勤3名）及び監事2名（うち非常勤1名）の7名となっています。

(2) 運用体制

運用体制は、理事長、理事、団体共済部長、総務課（総務係）となっています。

なお、積立金の管理及び運用に係る重要事項について審議するため、資産運用委員会を設置しており、積立金の管理及び運用のリスク管理等を行っています。

また、積立金の管理及び運用に係る専門的な事項については、経済、金融、資金運用等の学識経験又は実務経験を有する者で構成する年金資産運用検討委員会を設置し、専門的な知見を活用しております。

そのほか、基本方針の策定及び変更、運用実績、リスク管理の状況等については、運営評議員会※へ報告することとしています。

※ 運営評議員会の委員は、組合員を代表する者で組織されています。

(3) 地方職員共済組合地方共済事務局との積立金の管理及び運用に関する協定

積立金の管理及び運用に関する事務のうち、次の定める事務を地方共済事務局に委託しています。

- ① 積立金の管理及び運用に係る基本的な方針等に関する事務
 - ・ 基本方針の変更に係る助言・提案等
 - ・ 各運用に関するリスク管理の実施方針の変更に係る助言・提案等
- ② 運用報告書に関する事務
 - ・ 運用報告の作成に係る助言・提案等
- ③ その他積立金の管理及び運用に関し必要な事務

(4) 年金資産運用検討委員会

積立金の管理及び運用に係る重要事項について審議するため、「年金資産運用検討委員会」を設置しています。委員は、経済、金融、資金運用等の学識経験又は実務経験を有する者から構成されています。

年金資産運用検討委員会では、基本方針の策定及び変更、基本ポートフォリオの設定及び見直し、リスク管理の実施方針等について審議することとしています。

また、積立金の運用状況、リスク管理の状況等については、年金資産運用検討委員会に報告することとしています。

平成29年度においては、平成28年度運用報告書、平成29年度各四半期運用実績等の内容で4回（持ち回りを含む。）開催しています。

委員名簿（平成30年3月31日現在）

- 米 澤 康 博（早稲田大学大学院経営管理研究科教授）
- 伊 藤 敬 介（みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社
取締役 投資技術開発部長兼データアナリティクス技術開発部長）
- 大 橋 和 彦（一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授）
- 川 北 英 隆（京都大学名誉教授）
- 宮 井 博（あせまねライフ株式会社 代表取締役社長）

1 資産構成割合

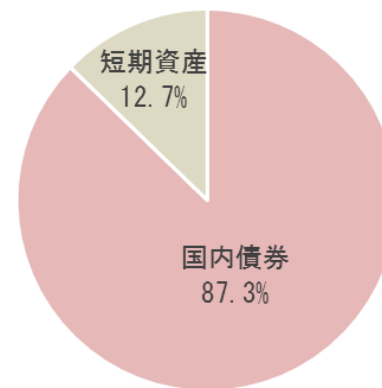
- ① 基本ポートフォリオ
基本ポートフォリオは国内債券100%としています。
ただし、「給付等の対応のため、短期資産を保有することができる。」こととしています。
- ② 運用資産額・構成割合
年金積立金全体の運用資産額及び構成割合等は以下のとおりです。

(単位：百万円、%)

平成29年度		
	資産額	構成割合
国内債券	2,324	87.3
短期資産	340	12.7
合計	2,664	100.0

(注) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

平成29年度末 運用資産別の構成割合



* 円グラフは、平成30年3月末時点の時価構成割合

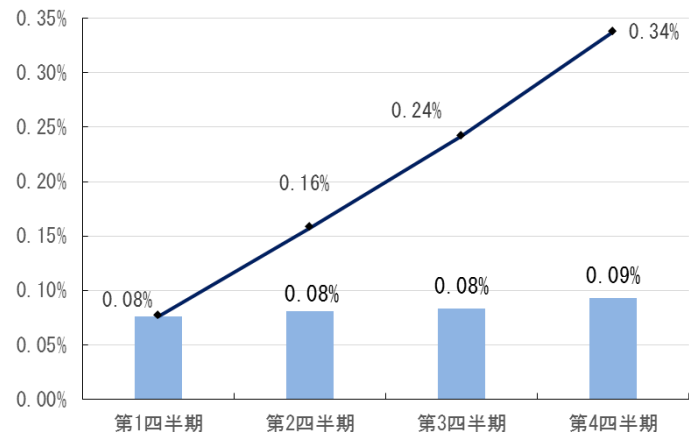
2 運用実績

① 運用利回り

平成29年度の実現収益率は、+0.34%となっております。
退職等年金給付組合積立金で保有する国内債券は、満期持ち切りを前提としているため、簿価評価としています。

(単位：%)

	平成29年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.08	0.08	0.08	0.09	0.34
国内債券	0.09	0.10	0.10	0.11	0.39
短期資産	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01

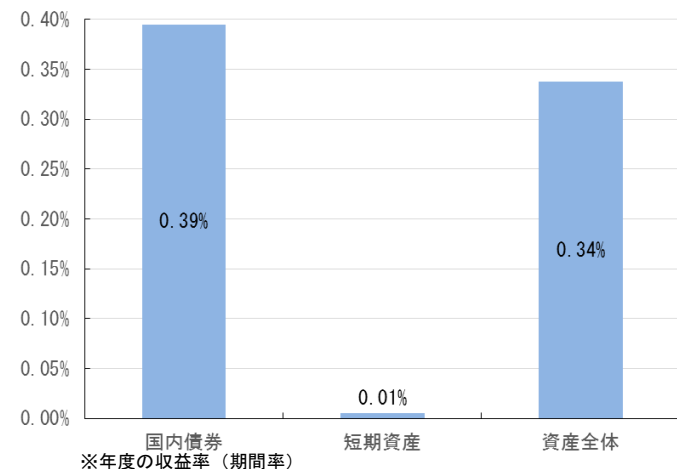


(参考)

(単位：%)

	平成29年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
修正総合収益率	0.38	0.33	0.29	0.45	1.47

※棒グラフは各四半期の収益率 (期間率)



- (注1) 基本ポートフォリオは、国内債券100%です。
なお、給付等の対応のため、短期資産を保有することができることとしています。
- (注2) 各四半期および「年度計」の収益率は期間率です。
- (注3) 収益率は、運用手数料控除後のものです。
- (注4) 修正総合収益率は、実現収益率に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。
- (注5) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

【参考】平成28年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り

○ 運用利回り 平成28年度の実現収益率は、0.28%となっております。

(単位：%)

	平成28年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.00	0.14	0.00	0.11	0.28
国内債券	0.00	0.18	0.00	0.14	0.35
短期資産	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

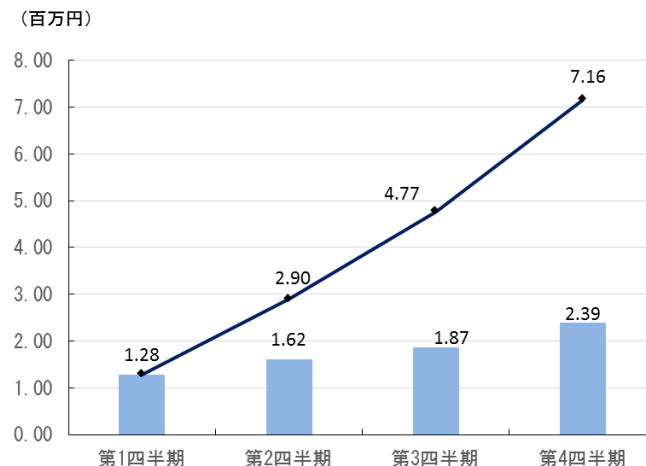
- (注1) 基本ポートフォリオは、国内債券100%です。
なお、給付等の対応のため、短期資産を保有することができることとしています。
- (注2) 各四半期および「年度計」の収益率は期間率です。
- (注3) 収益率は、運用手数料控除後のものです。
- (注4) 修正総合収益率は、実現収益率に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。
- (注5) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

② 運用収入の額

平成29年度の実現収益額は、+7百万円となりました。
退職等年金給付組合積立金で保有する国内債券は、満期持ち切りを前提としているため、簿価評価としています。

(単位：百万円)

	平成29年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	1.28	1.62	1.87	2.39	7.16
国内債券	1.28	1.61	1.87	2.39	7.15
短期資産	0.00	0.00	0.01	0.01	0.02

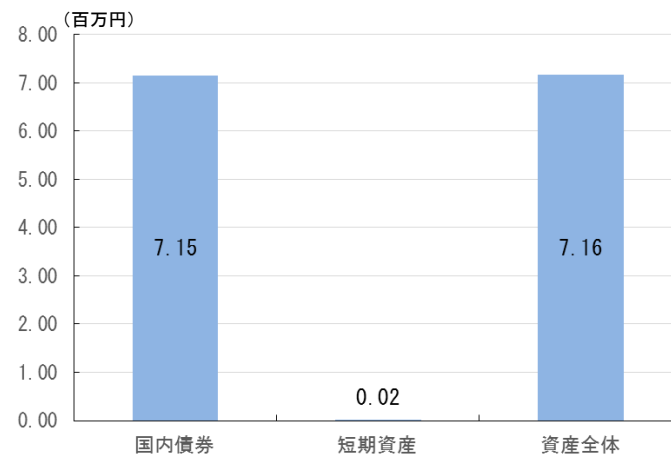


※棒グラフは各四半期の収益額

(参考)

(単位：百万円)

	平成29年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
総合収益額	6.39	6.63	6.39	11.42	30.83



※年度の収益額

- (注1) 収益額は、運用手数料控除後のものです。
- (注2) 総合収益額は、実現収益額に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。
- (注3) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

【参考】平成28年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額

○ 運用収入の額 平成28年度の実現収益額は、+3百万円となりました。

(単位：百万円)

	平成28年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	0.00	1.23	0.00	1.64	2.87
国内債券	0.00	1.23	0.00	1.64	2.87
短期資産	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(注1) 収益額は、運用手数料控除後のものです。

(注2) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

③ 積立金の資産の額

(単位：億円)

	平成29年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益
国内債券	15	15	0	18	18	0	20	20	0	23	23	0
短期資産	4	4	0	3	3	0	5	5	0	3	3	0
合計	19	19	0	21	21	0	25	25	0	27	27	0

(注) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(参考)

(単位：億円)

	平成28年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益
国内債券	5	5	0	8	8	0	10	10	0	13	13	0
短期資産	3	3	0	2	2	0	4	4	0	2	2	0
合計	8	8	0	10	10	0	14	14	0	15	15	0

3 リスク管理

○ 積立金の収益率と目標運用利回り

平成29年度の実現収益率は、国債等の投資を行って間もないため、目標運用利回りとなる予定利率に達していません。

(単位：%)

予定利率		実績	
年率	各四半期	年度	第4四半期
0.48%	0.12%	0.34%	0.09%

4 市場環境

○ 国内債券市場

4月に一時5ヶ月振りの低水準となりましたが、5月には株高や米国金利高、6月にはECB（欧州中央銀行）の金融政策正常化が意識され月末にかけ上昇しました。7月に日銀が通常の国債買い入れオペを増額したことに加え、約5ヶ月ぶりに指値オペを実施したことなどにより金利上昇が抑制されました。8月には利回りは低水準になり、9月初旬に一時マイナスとなりましたが、月末にかけ利回りは上昇しました。日銀の国債買い入れオペの結果、利回りは11月上旬に低下しました。その後は利回りは一時上昇に転じる局面もありましたが、上昇は続きませんでした。12月は上旬に小幅に利回りが上昇しましたが、その後は日銀が金利操作水準を維持するなかでほぼ横ばいで推移しました。1月上旬に株高や日銀の国債買い入れオペの減額などを受け利回りは上昇しました。2月は概ね月間を通じて低下傾向となり、3月は利回りが上下する局面がありましたが、月間では利回りは変わりませんでした。

日本10年国債利回りの推移



	2017/3末	2017/6末	2017/9末	2017/12末	2018/3末
10年国債(%)	0.065	0.075	0.060	0.045	0.045

5 保有銘柄

平成29年度末（平成30年3月31日現在）の保有銘柄は次の通りです。

発行体名	簿価総額 (億円)
地方公共団体金融機構	23

資産運用に関する専門用語の解説

○ 基本ポートフォリオ

統計的な手法により定めた、最も適格と考えられる資産構成比(時価ベース)。

○ 総合収益額

実現収益額に加え資産の時価評価による評価損益を加味することにより、時価に基づく収益把握を行ったものです。

(計算式)

$$\begin{aligned} \text{総合収益額} &= \text{売買損益} + \text{利息・配当金収入} + \text{未収収益増減(当期末未収収益} - \text{前期末未収収益)} \\ &+ \text{評価損益増減(当期末評価損益} - \text{前期末評価損益)} \end{aligned}$$

○ 退職等年金給付組合積立金

被用者年金一元化後、当組合が年金払い退職給付のため積立を開始し、管理運用している積立金。

退職等年金給付組合積立金の運用状況については、この運用報告書を含め、当組合のインターネット・ホームページ(<http://www.dankyo.jp/>)に掲載していますので、ご参照ください。